

山本山高原・調整池 (小千谷市)

■環境：山地 湖沼
 ■対象：家族
 ■期間：9月中旬～
 4月上旬

小千谷市の市街地に隣接した河岸段丘の336mの山。山本山調整池はガン・カモ類の集中渡来地である。山頂は遠く弥彦、妙高、苗場山を一望でき、秋にはワシ・タカ類、小鳥類の渡りのルートになっている。

〈いながらに観察できる冬のカモ類〉

山本山は越後平野の南端に位置する。そのため条件さえよければ、弥彦、妙高、苗場などの山々を一望でき、眼下には信濃川がつくりだした河岸段丘を見ることができる。

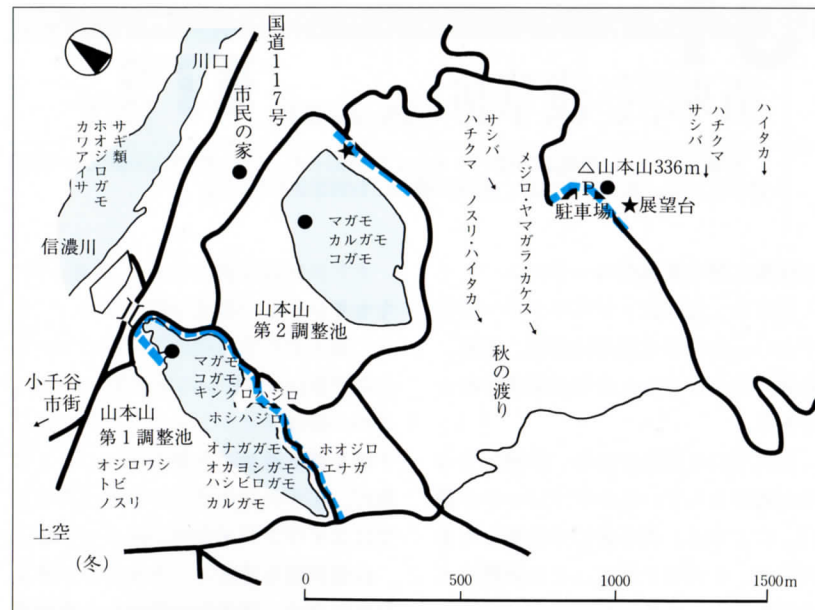
昭和47年(1972年)鳥獣保護区に指定された山本山第1調整池は9月初旬からガン・カモ類が飛来する。ピークは狩猟期に入った11月下旬～2月中旬である。中でも1月が最も多く、1万羽近く観察されたこともある。最も多いのがマガモで、コガモやオナガガモも多く見られるが時期により変動があ

る。カルガモは以前より個体数が減ってきたが、まだ多く観察できる。特徴はハシビロガモとオカヨシガモの飛来が県内では最も多いこと。このほかヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、数は少ないがオシドリ、トモエガモ、ヨシガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、まれにマガン、ハクチョウ類も観察されている。

ワシ・タカ類ではオジロワシ、ノスリ、ハヤブサなどが見られる。他に年によってはハマシギの大群が見られることもあり、カイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、イカルチドリ、タシギ、アカエリヒレアシシギなどの記録もある。山本山第2調整池は第1池より鳥の数は少ないが、マガモ、カルガモを中心にほぼ同じような種類の鳥が観察されている。2月～3月に渡りの途中のトモエガモの大群がしばしば現れる。

〈壮観！秋のワシ・タカ類の渡り〉

山本山では9月～10月にワシ・タカ類の渡りが見られる。山頂の展望台は360度の見晴らしがきくため、観察し



やすい。

9月中旬から10月下旬はサシバ、ハチクマの渡りが見られる。天候に恵まれれば合わせて500羽以上を観察することもある。10月中旬～11月上旬にはノスリの渡り、またハイタカは9月上旬～11月中旬まで長期間渡りが続く。このほかミサゴ、オオタカ、ツミ、イヌワシ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チヨウゲンボウなど多くのワシ・タカの仲間が観察できる。

〈山頂のこずえを飛ぶ小鳥類の渡り〉

アマツバメ、ハリオアマツバメ、ヤマガラ、コガラ、メジロ、エゾビタキ、カケスなど小鳥類の渡りも頻繁である。

山本山と調整池は、秋から春にかけて多くの渡り鳥が中継地や越冬地として利用しており、これまでに130種以上の鳥類が確認されている。

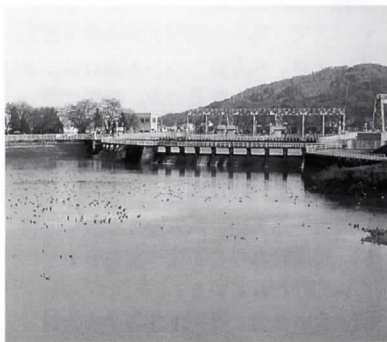
(中山正則)

メモ

交通 J R小千谷駅から十日町行きのバスで「山本」下車。車は関越自動車道、川口ICで下りる。

回 山本山第1、第2調整池は駐車場なし。山本山山頂、展望台近くにスキー場の広い駐車場とトイレがある。

探鳥会 例年9月中下旬、山本山の展望台で県支部主催のワシ・タカ類の渡りを見る探鳥会がある。



調整池に群れるカモ